行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	特定鳥獣管理事業	担当課	農林課
細分化した事業名			

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	魅力あふれるまちづくり
	政策	環境と調和した農林業の振興
	施策	農林業の振興

関連する個別計画等	山梨県特定鳥獣保護管理計画	根拠条例等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	山梨県特定鳥獣（サル、ニホンシカ、イノシシ）保護管理計画に基づき、個体数を調整するための捕獲を実施する。
事業の手段	○捕獲業務委託により実施 ・委託料　サル＝20,000 円　シカ、イノシシ=12,000 円（いずれも１頭当り） ・H25 年度、H26 年度、H27 年度＝韮崎市鳥獣害防止連絡協議会と委託契約（地元猟友会も会員） ○実施要領：通常の猟期内に限られる狩猟行為が、管理捕獲事業では年間通して実施できる。6 か月に一度、捕獲頭数の許可が必要
事業の対象	市内全域に生息する特定鳥獣（サル、ニホンシカ、イノシシ）

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	7,244	7,600	8,980
財源内訳	国・県支出金	3,622	3,800	4,490
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	3,622	3,800	4,490
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.2	0.2	0.2
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	1,298	1,359	1,343
D 総事業費(A+C)	（千円）	8,542	8,959	10,323

主な事業費用の説明	市内全域に生息する特定鳥獣の捕獲（サル、ニホンジカ、イノシシ）

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度（6,491 円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	実績値 26 年度	実績値 27 年度
活動指標	1	捕獲申請数	許可数（件）	2	2	2
	2	目標捕獲数	サル（頭） ニホンジカ（頭） イノシシ（頭）	200 頭 250 頭 50 頭	200 頭 250 頭 50 頭	200 頭 365 頭 50 頭
	3					

妥当性		
		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	県から割り当てられた捕獲頭数につき、前期と後期に分けて申請を行う必要があることから、妥当である。
	2	有害鳥獣の追い払いとは別で、確実に個体数を減らせることができるので妥当といえる。
	3	

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	捕獲鳥獣数	サル（頭） ニホンジカ（頭） イノシシ（頭）	184 頭 250 頭 47 頭	200 頭 250 頭 50 頭	200 頭 365 頭 50 頭
	2					
	3					

成 果		■ A 上がっている　□ B ほぼ上がっている　□ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	近年、目標捕獲数が上がっている中、目標捕獲数を達成しているので確実に成果を上げているといえる
	2	
	3	

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成　■ B 期待どおりに達成　□ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） 鳥獣による農林業への被害が多いことから、地元猟友会との連携を強化するとともに、鳥獣被害対策実施隊の充実を図り、効果的な捕獲活動を実施していく。
過去の改善経過	鳥獣被害対策実施隊の設置による追い払い・捕獲活動の充実。
課長所見	鳥獣被害対策実施隊の活動により、迅速な対応ができていると考える。猟友会の会員についても人員増を図り、体制強化をしていくことが重要である。